

Feeling check あらゆるシチュエーションにおいてコントロールが容易に!



「走る楽しさ」と「乗り心地」という本来相反する性質の両立を目指し開発されたサムライ。ソフトライドな3インチアップ用に対し、今回の2インチアップ用は、ダート走行など比較的速いスピード域でのオフロード走行をターゲットにセッティングが施されている。こう聞くと「結構硬めの乗り味なんだろうな〜」と思われる読者もいると思うが、実際に乗ってみるとそんなことは全くない。凹凸のある路面でスムーズな走りを見せながらも、しっかりとボディコントロールもできるスポーティ&コンフォートな乗り味が実現されている。ワインディングロードなどでもボディロールをしっかり抑え込み、あまりの気持ちよさにアクセルペダルを踏む足にも自然と力が入ってしまうほどだった。



MONROE SAMURAI

プレジャー&コンフォートを体感せよ!

国内専用モデルとして開発されたショックアブソーバー“SAMURAI(サムライ)”に、ジムニーJB23の2インチアップに対応したモデルが登場。「セッティングの妙、モンローの真髄を見せたかった!」と開発者が語るニューアイテムの真価は如何に? PRODUCED BY テネコジャパン (www.monroejp.com)

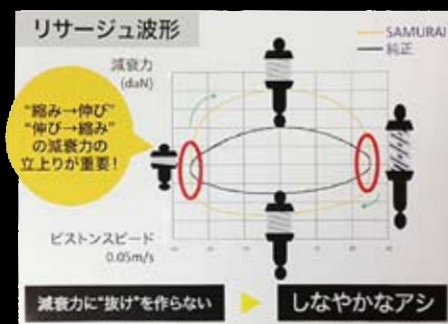
「モンロー」というショックアブソーバーブランドを知っているという読者は多いと思うが、モンローが世界初のショックアブソーバーブランドということを知っている方は意外に少ないのではないだろうか。かくいう自分も最近までそのひとりだったのだが、モンローが世界初の衝撃除去器を開発したのはなんと90年近く前の1926年のこと。その後、伸び縮みという、現在のショックアブソーバーの原型を世に送り出し、さらにはストラット式ショックも開発するなど輝かしい実績を残してきた。モンローは現在、その技術力が認められアフターパーツメーカーとしては北米、欧州にてトップシェアを獲得しているブランドなのだ。

そんなモンローブランドから、細かな要求の多い日本のユーザーに向けた国内専用用品としてライオンナップされたショックアブソーバー・サムライからニューアイテムが発売された。サムライは走り心地の両立を目指した商品で、ジムニーJB23用です。すでに3インチアップ用をリリース済みだが、今回登場したのは1年という開発期間をかけて完成された2インチアップ用だ。3インチアップ用はソフトライドなセッティングを得意とするのに対し、2インチアップ用はダートを主戦場として開発。モンローの真髄を見せるべく様々なバネレートを持ったスプリングと組み合わせ、テストドライブを繰り返しながら

ら、最適なセッティングを導き出したという。そのキモはバルブなどの多彩な内部パーツとそれらを最適な状態に組み上げる技術だろう。質の良い食材(内部パーツ)を最適な方法(技術)で調理するからこそ、絶妙な味付けの逸品が生まれる。90年という長い年月の間に積み上げられた経験があっただけで完成されたショックアブソーバーなのだ。

- 4本セット SX4007Y: 53,760円(税込)
- 単品
- フロント SJ0761Y: 13,440円(税込)
- リア SJ0762Y: 13,440円(税込)

Mechanism ストロークし始める時の減衰力に徹底的にこだわりセッティング



最大長	458mm
最小長	283mm
ダストカバー径	54φ
シェル外径	45φ
ボア内径	30φ
伸び減衰力(0.3M/S)	243kgf
縮み減衰力(0.3M/S)	102kgf

イラストは、1秒間に5cmのスピードでショックアブソーバーを伸縮させた時の減衰力をグラフにしたもの。リサージュ波形は真円に近いほどショックアブソーバーとしての機能をしっかりと発揮しているということになる。サムライと純正ショックアブソーバーの波形を見比べて見ればその違いは一目瞭然。さらに、赤丸で示した縮み→伸び、伸び→縮みが切り替わるポイントでもしっかりと減衰力を発揮しているの、しなやかな乗り味が実現できる。一般的に突き上げ感が強いと言われるのは、この切り替わりのポイントでの減衰力の働きが弱い状態を表す。ショックアブソーバーが大きくストロークする時ではなく、動き始めの僅かなストローク時に如何に減衰力を発揮するか、がショックアブソーバーの性能を分けるポイントと良い。サムライではこの辺りのセッティングを、豊富なバルブデザインを駆使することで生み出しているのだ。



テネコジャパンの池内さん(右)と宮毛さん(左)。「サムライはモンローの技術を感じていただけのショックアブソーバーに仕上がっています」